月刊 しばうら

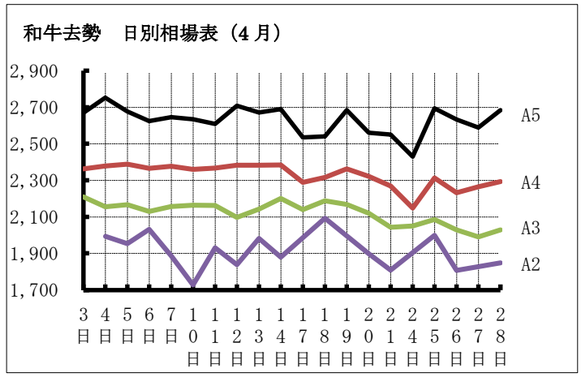
2023年 5月号

牛肉営業部

＜4月の相場動向＞

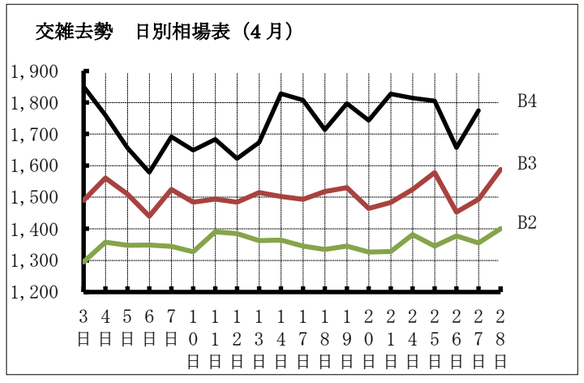
年度替わりを迎え、さらにゴールデンウィークを控えた4月は例年相場が上昇する傾向にあり、今年度も前月を上回る展開となった。

新型コロナウイルス対策の緩和に伴い、人流が活発化し消費拡大に期待が高まったが、生活コストの上昇による節約志向は外出先でもみられ、牛肉需要にとっては逆風状態が継続している。その結果、和牛の2等級を除いた品種・等級で前年実績を下回る結果となった。



和牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
A5	2,642円	-70円	97.4%	30円	101.1%
A4	2,338円	-154円	93.8%	55円	102.4%
A3	2,124円	-154円	93.2%	124円	106.2%
A2	1,922円	173円	109.9%	147円	108.3%



交雑去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B4	1,737円	-6円	99.7%	90円	105.5%
B3	1,511円	-104円	93.6%	69円	104.8%
B2	1,301円	-88円	93.7%	98円	108.1%

乳牛去勢（月平均）

	加重平均	前年同月比		前月比	
B3	－	－	－	－	－
B2	1,353円	-129円	91.3%	52円	104.0%

＜5月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、3月の輸入量は前年同月比8.5%増の3万6,797tで、うちチルドは5.2%増の1万7,778tと上回った。フローズンも前年同月比11.7%増の1万9,018tと上回った。

農畜産業振興機構によると4月の牛肉輸入数量は、前年同月比8.5%減の5万6,300t（チルド12.1%減・冷凍6.6%減）、5月は9.3%減の4万1,500t（チルド17.0%減・冷凍3.0%減）と予測している。米国産の生体価格が高いため、米国産のチルドは減少、豪州産のフローズンは中国の買い付けが旺盛で買い負けした結果となっている。

輸入牛肉通関量		3月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	7,572	5,375	140.9%
	米国	8,784	9,674	90.8%
	その他	1,422	1,853	76.7%
	合計	17,778	16,902	105.2%
フローズン	豪州	5,297	6,151	86.1%
	米国	8,390	4,775	175.7%
	その他	5,331	6,096	87.5%
	合計	19,018	17,022	111.7%

出典：食肉速報　　単位：t

＜5月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による5月の出荷予測頭数は、全体で前年比104.2%の8万7,700頭で、品種別にみると和牛は2.9%増の3万8,400頭、交雑種は10.3%増の2万1,700頭、乳用種は2.2%増の2万6,300頭と予測している。

東京食肉市場の5月のと畜頭数は6,700頭を予定しています。

＜5月の牛枝肉相場見通し＞

新型コロナウイルスの5類感染症への移行が行われるものの、コロナ自体が無くなる訳でなく、コロナ前に戻るにはまだまだ時間がかかると考えられる。

また、ロシアのウクライナ侵攻の収束もまだまだ見えず、エネルギーコストや各種原料の高止まりは継続する見込みで、消費環境における節約志向は続くと考えられ、牛肉需要が大きく回復するとは言い難い。

訪日外客数について3月は181万7,500人と前年実績2,648.1%と順調に回復傾向にあり、引き続きインバウンド需要の拡大に期待したい。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,400～2,800	B4	1,450～1,650
A4	2,200～2,350	B3	1,250～1,350
A3	1,950～2,150	B2	1,100～1,200
A2	1,900～1,950		
乳牛去勢			
B3	1,000～1,050		
B2	900～950		

豚肉営業部

3月の全国と畜頭数は、前年同月比2.1%減の146万9,760頭。また、3月の豚肉通関数量は6万9,116t（前年同月比3.9%減）と前年を下回り前月比でも3.1%の減少となった。内訳はチルドが3万6,010t（7.9%減）、フローズンは3万3,106t（0.8%増）。

2022-2023年の需給量と推定期末在庫						
	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
月	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
3	83,139	71,938	24,001	156,094	82,191	71,779
4	76,226	108,81	22,232	169,980	77,840	94,930
5	72,433	77,418	22,442	176,959	72,091	70,439
6	73,206	89,288	21,153	192,277	74,366	73,970
7	67,448	83,013	21,249	200,051	67,235	75,239
8	70,579	86,492	20,365	207,966	71,378	78,577
9	72,682	72,520	19,371	204,472	73,540	76,014
10	75,562	75,744	19,698	196,107	75,147	84,109
11	81,124	87,886	18,751	195,556	81,933	88,437
12	79,634	68,853	19,816	185,413	78,413	78,996
1	77,331	74,837	18,538	188,666	78,557	71,584
2	72,899	71,250	19,905	189,121	71,425	70,795
3	81,586	69,027	20,232	189,572	81,112	68,576
比	98%	96%	84%	121%	99%	96%

出典：農畜産業振興機構　比：最終月の前年同期比　　単位：t

3月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	16,958	83.7%	デンマーク	3,590	93.4%
カナダ	16,311	99.3%	スペイン	10,557	97.3%
メキシコ	2,741	114.3%	メキシコ	5,523	82.9%
			アメリカ	2,081	85.2%
			カナダ	2,151	152.3%
合計	36,010	92.1%		33,106	100.8%

単位：t

＜4月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	67,100	513	488	895
4日	67,500	512	491	898
5日	65,700	540	490	727
6日	66,900	510	496	678
7日	62,900	516	496	956
10日	66,000	535	512	817
11日	67,400	536	521	834
平均	66,214/日			829/日

4月に入り食料品の度重なる値上げによって末端消費は更に鈍さを増し、消費者の節約傾向は高まった。輸入物の相場高などもあり全体的な荷余り感はみられず、相場は500円台前半でもちあった展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
12日	66,500	554	525	740
13日	65,400	544	535	707
14日	63,800	528	521	1,052
17日	67,600	552	535	832
18日	67,900	574	561	969
19日	63,800	602	580	717
平均	65,833/日			836/日

輸入チルドポークは北米からの入船遅れなどによる物流への影響がかなり改善され、引き合いも徐々に増え始めた。国産豚肉の需要は底堅く、ゴールデンウィークに向けた手当によって19日には上物相場が600円を超える展開となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
20日	63,300	594	584	728
21日	65,600	606	585	1,080
24日	68,900	600	576	1,004
25日	69,200	609	596	967
26日	69,300	597	588	859
27日	69,200	591	570	933
28日	67,200	600	583	1,019
平均	67,529/日			941/日

全国と畜頭数は連休を控え6万頭後半の日が続いた。コロナ禍以来、数年ぶりの行動規制なしのゴールデンウィーク行楽需要にも期待がかかる中、枝肉相場は600円絡みの引き締まった展開となった。

＜5月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和5年5月の肉豚出荷予測では132万6,000頭（前年比100.2%）と予測している。

当市場の5月集荷予定せり頭数は1万6,000頭、1日あたりでは約800頭を見込んでいます。

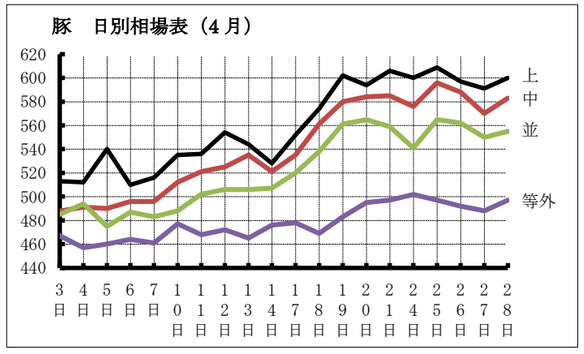
農畜産業振興機構によると5月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万9,000t（同102.0%）、内訳は冷蔵輸入量が3万2,300t（同120.6%）、冷凍輸入量は4万6,700t（同92.2%）と予測。

冷蔵品輸入量は,為替の影響や主な輸入元である北米の現地相場の高止まりがあるものの、前年同月の輸入量がカナダ産の入船遅れにより少なかったこと等から、前年同月を大幅に上回ると予測する。なお、3ヵ月平均では前年同期をわずかに下回ると予測する。

冷凍品輸入量は欧州の現地価格上昇や為替の影響に加え、前年同月の輸入量が例年より多かったこと等から前年同月をかなりの程度下回ると予測する。同じく3ヵ月平均も前年同期をかなり大きく下回ると予測する。

5月は例年通りゴールデンウィーク以降の節約ムードが強まることに加え、特にイベントもないことから上旬はスソ物中心で、相場は弱持ち合いの展開となりそうだ。中旬以降は出荷頭数の減少に伴い、末端需要に関係なく高値を推移するとみられる。

以上のことから当市場の上物平均価格は630円前後、中物平均価格610円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2－7－19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127